

ファシリテーション活用支援プログラム 実施報告書

2014 年度実施報告書

- 1.山梨県立中央病院
ファシリテーション講習会 ～話し合いに参加する事が楽しくなる方法～
- 2.東京都立産業技術高等専門学校
授業に活かすファシリテーション
- 3.武蔵野赤十字病院
ファシリテーション研修～学びあい育ち合う学び場づくり～
- 4.福島県安達地区保健師連絡会
安達地区保健師連絡会研修会
- 5.神奈川県社会福祉協議会 かながわ福祉人材研修センター
平成 26 年度ファシリテーション基礎研修
- 6.広島保護観察所 社会復帰調査官室
ケア会議を進行するためのファシリテーション基礎講座
- 7.小平市上水南公民館
ファシリテーション入門講座 <意見が活発になる話し合いの進め方>
- 8.いそご区民活動支援センター
ファシリテーション・スキル入門 <意見を引き出し 活動を活性化させよう！>
- 9.大津市教育委員会
公民館を支える応援隊養成講座
- 10.岩手県久慈市 総合政策部政策推進課
まちづくりファシリテーター養成講座
- 11.東京工業大学 社会理工学研究科 価値システム専攻 坂野研究室
Web 会議システムを使った討議型世論調査（D P）
- 12.静岡県社会福祉士会西部支部会
福祉の現場で活かせるファシリテーション講座



はじめに

「ファシリテーションを学び、育て、活かせる場を日々耕し、多様な人や組織がつながっている」・・・。

2014 年度「ファシリテーション活用支援プログラム」の 12 の現場でこれが実践され様々な成果や気づきが生まれました。本報告は、これからも多様な組織とつながり響きあう社会を創り出すために、多くの方にこのプログラムを知って活用していただくために作成しました。ぜひご一読ください。

「ファシリテーション活用支援プログラム」の紹介

【事業の経緯】

日本ファシリテーション協会（以下、「FAJ」）では、2003 年の発足以来、「講師・ファシリテーター紹介事業」を実施していましたが、ファシリテーションが一定程度普及し、研修などのサービスを提供する企業が増えたことにより、当該事業は、その役割と目標はほぼ達成したと判断し、2007 年度をもって終了しました。

一方で、企業によるサービスは増加したものの、非営利組織や地域コミュニティなど、必要性はありながら資金面の制約からそれらのサービスを十分受けられない組織や団体が多く存在している事実がありました。また、FAJ として、より多くの会員にファシリテーションを実践する機会を広く提供することが課題となっていました。そこで、2008 年度から、「公共性」「非営利性」「公開性」などの要件を満たすワークショップ・研修などの依頼に対し、会員からファシリテーター（講師）・コーディネーター・アシスタントなどを公募し、チームとして対応する「現場紹介事業（ファシリテーション活用支援プログラム）」をスタートしました。

その後、名称による混乱を避け、NPO のミッションとしての「社会に対して発信する事業」という視点を強調するため、2009 年 7 月からは事業の名称を「ファシリテーション活用支援プログラム」（略称：ファシ活）に統一し、現在に至っています。

【事業内容】

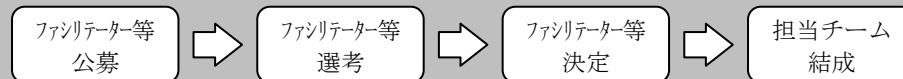
依頼者は FAJ の HP より問合せ、ファシリテーション活用支援プログラムの申込申請をおこなう。申請内容について委員会で審査、承認する。

1 プログラムの認定



FAJ 会員内でファシリテーター等を公募。応募者からファシリテーターを選考、決定する。

2 プログラムの遂行チーム結成



依頼者と担当チームでのプログラム打合せをおこない、プログラムを作成する。プログラム実施後はレポートを作成する。

3 プログラムの遂行



1. プログラムの認定

協会の内外より、ファシリテーションに関する講演・研修、ワークショップの企画・運営、ファシリテーターの派遣などの依頼があった場合、ファシリテーション活用支援プログラム委員会（以後、ファシ活委員会）においてプログラムに認定するか否かの審議を行います。承認検討は以下の 3 つの観点から行われます。

【協働性】

本プログラムは、【企画→調整→実施→評価】という一連の流れ全てを結成したチームとご依頼者との二人三脚で歩むことになります。単に「サービスを提供する／される」という関係ではなく、いろいろとご協力をいただくことが前提となります。よって、時間的余裕（3 ヶ月程度の準備期間を想定しています）がない事業は不可となることがあります。

【公共性】

当会は非営利活動法人であり、本プログラムは財政的に十分でない団体や公益性の高い事業に対する支援を目的としております。営利目的の事業や、参加費を徴収する事業は不可となります。ただし、公益目的や地域活動等の事業で、徴収する参加費が実費範囲であることが確認できる場合は可となります。

【公開性】

本プログラムは、実践事例の紹介を通じたファシリテーションの普及も目的の一つとしています。ファシリテーションの活用事例として報告書の作成や本会が開催するイベントでの事例報告、本会会員に対して現場でファシリテーションの力を磨く機会、本会会員が現場でのファシリテーションの活用事例を知る機会の提供も目的としています。次の 2 点につきましてご理解、ご協力いただけることを条件とします。

1. ワークショップ・研修などの場にファシリテーター（講師）以外のコーディネーター、アシスタント、見学者などが同席できること。
2. 本会のニュースレター、イベントなどでワークショップ・研修の様子を定例会、WEB などを通じて公開すること

2. プログラムの遂行チーム結成

ファシ活委員会で承認後、全会員にファシリテーター、講師を公募し、コーディネーター、アシスタントを含むチームを結成します。

3. プログラムの遂行

【企画→調整→実施→評価】という一連の流れ全てを結成したチームとご依頼者との二人三脚で歩むことになります。

■事業の概要（一部非公開の内容あり）

□主 催： 山梨県立中央病院

□事業名：ファシリテーション講習会 ～話し合いに参加する事が楽しくなる方法～

□実施期間（企画・準備含む）：2014.1～

□実施日・場所：2014.4.17

□参加者数：32名

□担当チーム（FAJ会員）：MF 浦山絵里 その他は先方の希望でなし

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：

医師のみではなく、看護師なども含めた、医療チームのコミュニケーション研修

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：NIC 機能評価の結果、医療職種間の連携で課題があるという指摘があり、チームによる話し合いを活性化する必要があったため。（公開しないでほしいとのこと）

②目的：他職種での話し合いが楽しくなるという体験をしたい。

③終了後に目指した姿（具体的に）：話し合いの場に、個々が参加している実感を持ってほしい。

ファシリテーターだけが何かをするのではなく、全員がファシリタティブに参加していく人になれるように、ファシリテーションスキルを共有したい。

■ 終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

- ・ 研修中に話し合い体験で本音が語られた。
- ・ 実際にその時期、研修医の負担も多かったことから、そのことを栗に出すことができた。
- ・ 看護職と助産師、医師と研修医が、それぞれ一緒に活動できたことに意味があると思う。
- ・ 今後、人的なチームワークを評価していく上で、役に立てていきたい。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

直接会って打ち合わせをしたのが1回、電話で2回、打ち合わせをした。

具体的な組織診断、関係性の調査結果について共有していただいた上で、相談しながらプログラムを作成した。

当日は3時間前に病院に行き、まずNICUを見学してから実施した。

□実施（支援）内容 17:30~20:00

17:30	挨拶
17:35	オリエンテーション OARRの説明
17:45	自己紹介ゲーム
18:00	ファシリテーションとは 自己選択自己決定の力 オープンクエッション 階層と共有 エンパワーメント プロセスの創るもの ファシリテーションのスキル デザイン→こちらはプロセスを創る仕掛けが大切 ホワイトボードミーティングの説明、ワーク
19:30	アドバイスをしない相談のワーク 安全で安心な場づくり 中立性 対立や感情への対応
19:45	質問やクレームタイム
19:55	まとめとリフレクション

■ 担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気づき等

- ワークの中で、研修医からでた本音（「ここで何をいっていいのか分からない、いってほしいことが見えないから話しができない」）は、「そういう状態にさせているものは何ですか？」の問いで、参加者全員の問いに変化していった。何かそれぞれが役割りの中で、自由に話すことや答えがたくさんある状態を実感することができないでいたのだと痛感している。（企画医師）
- もっとゆっくり時間があったらよかった。

＊この研修の後、NICU主任の渡辺美紀さんに医学書院の助産雑誌「NICUでのコミュニケーションの実際」というテーマで雑誌投稿をお願いしました。この中でもこの研修のことについて触れられています。

（助産雑誌2014年10月号（通常号）（Vol.68 No.10）

特集 コミュニケーション術をみがいて、いいお産をめざす。

<http://www.igaku-shoin.co.jp/journalDetail.do?journal=35955>

■事業の概要

□主催：東京都立産業技術高等専門学校(品川キャンパス、荒川キャンパス)

□事業名：授業に活かすファシリテーション

□実施期間（企画・準備含む）：2014年8月7日～10月1日

□実施日・場所：10月1日・東京都立産業技術高等専門学校品川キャンパス西棟6階PBL室

□参加者数：13名

□担当チーム（FAJ会員）：

MF：尾上昌毅、アシスタント：関戸大、大竹（野口）由紀子、
オブザーバー：荒川薫（記録）、松下敏治（F活委員）

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：

ワークショップを実施

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：

教育現場では、従来の「教える」という手法に加え、学生が主体的に「学ぶ」というアプローチを増やしていこうという傾向にあるが、後者では学生の学びを促すことが教師の役割となる。

ファシリテーション・スキルの必要性を既に認識している高専の教職員を対象に授業に直接役立つファシリテーション・スキルの修得をしてもらいたい。特に学生の行なうワークの働きかけや介入の仕方を学びたい。

②目的：

一度はファシリテーションの本を読んだり研修を受けてファシリテーションそのものは知っている教職員（参加予定者）だが、具体的に授業に応用することに困難を感じている。

参加型の授業にするためにファシリテーションをどのように取り入れられるのか、できる工夫を知りたい。

③終了後に目指した姿（具体的に）：

①ファシリテーションの自分の授業・現場への応用についてのヒントを得ている。②経験をベースに、ファシリテーションのスキルの一部を自分の授業に受け入れるための準備ができている。③自分達が継続してファシリテーションを学びあっていける関係性ができている。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

実践的な内容で役に立った。アシスタントとして参加した2名のFAJ会員が高専の教諭だったこともあり、授業事例の共有などコネクションができたことも主催者にとって大きな収穫であった。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

- 2014年8月7日（木）（依頼主）石崎先生らと面談：松下、尾上
- 8月22日（金）、8月27日（水）9月4日（木）、9月11日（木）スカイプMTG(MF, AF アシスタント)にてプログラムデザイン打ち合わせ
- 9月24日（水）石崎先生と尾上の最終打ち合わせ

□実施（支援）内容

当日の実施内容

8:45～	会場（東京都立産業技術高等専門学校／西棟6階 PBL室）に集合、場作り準備。参加者が少しずつ集合。
9:05～	開始時点での参加者：12名。主催者である石崎先生、MF尾上の挨拶。 FAJメンバーの紹介
9:10～	■アイスブレイク：ペアインタビュー 誕生日順に一列に整列（声出しNG）。→6人×2列で向かい合わせに並ぶ。以下についてペアで立ったまま自己紹介（1問ごとに列をずらし、ペアを変えてインタビュー：聴き合う）。 ①今日の朝ご飯メニュー（1min） [1名が遅れて参加、ペアとしてAF大竹さん参加] ②私のストレス発散法（2min） ③今日参加した動機（2min） ④自分の受けた最高の授業（3min） 今朝起きた順に列を並び替え（声出しOK）。→3グループに分ける。
9:26～	プロッキーの持ち方・書き方練習。4分間
9:30～	グループ内自己紹介（全員で3min）／4象限 ①名前②誕生日③教えている教科④今、不安なこと
9:38～	A4紙を縦に4分割し、「振り返りシート」作成。 ・開始後の30分間で気付いたこと、感じたことを「振り返りシート」に記入。 →グループ内で共有（1min／人）。→グループ代表者が発表。 >>>>> <各自意見>「相手を知る」「あらためて話すと新鮮」「二人インタビューは良い」「他人の話を聞くことは大事→深掘りしたい」「相手のことを紹介（反復）したらどうか」などの意見あり。 <1班>アイスブレイク不要では。→既に知っている（出来ている）ことなので。 しかし、聞くと（場が？）ほぐれるので良かった。 <2班>プロッキーの使い方が苦手だったので、機会を作って学ぶことは大事だと思った。 <3班>穏やかに始まって良かった。

9:50～	■ミニ講義（本日のゴール、コンテンツ・プロセスについて等）
10:05～	■模擬会議／退屈な授業を減らすためのヒントを挙げる（30min） ◆話し合い(1)：退屈な授業の中でどんなコトが起きているか。 ・学生達、教師の言動など、「あるある」をたくさん出す。 ***** [目標]退屈な授業に見られる場面状態がたくさん出ている。 [役割]全員が発言者 [お約束]結論を出さない。解決策は考えない。評価しない。 [進行]一人でカードに「あるある」を書く（1min）。→書く内容をグループで共有。（6min）
	「振り返りシート」に気づきを記入。→2人ペアで共有。→グループ内で共有（3min）。 >>>>> 「学生にやらせる」「最初の興味（引き付け）、モチベーションが大事」「同じ事でも捉え方が違う」などの参加者の意見あり。
10:30～10:43	休憩＜サイコロで休憩時間決定＞
10:43～	■カタルタワーク 「ここまでやってみての感想をひとこと」→カタルタで引いた接続詞（または副詞句）→続けて「もうひとこと」
10:53～	■模擬会議の続き。 ◆話し合い(2)：どうしてそういうコトが起こっているのか？その背景の理由を考える。 ・話し合い(1)で出た「あるある」の中から一つ選ぶ。 ***** [目標]背景や理由がたくさん出ている。 [役割]グラフィッカー：1名、発言者：全員 [お約束]まとめない、否定や評価はしない。 [進行]①グラフィッカーを2名選出。②「あるある」から話したい内容を決める。③ひとりで背景・理由を考える。④グループで意見出し。 >>>>> <1班>教員が黒板と話している <2班>学生がボーッとしている <3班>教員が一方向的に話す、教員が生徒を見ていない。
11:07～	「振り返りシート」に気づきを記入（2min）。→2人ペアで共有。
11:13～	席替え（グループ内で左に1席分だけ移動）
	■模擬会議の続き。 ◆話し合い(3)：解決策、予防策をできるだけ多く考えて出す。

	***** [目標]「こうすれば退屈でなくなる」がたくさん出ている。 [役割]グラフィッカー：1名、発言者：全員 [お約束]まとめようとしない、否定や評価をしない。 [進行]①グラフィッカーを2名選出。②ひとりで考える。④グループで意見を共有して紙に書く（5min）。
～11:33	「振り返りシート」に気づきを記入。 >>>>> 「身だしなみ」や「書くスピード」を挙げる参加者あり。
11:33～12:33	昼食休憩。F A J メンバーと石崎先生は会場にて一緒に昼食を摂り、情報交換。
12:33～	[PMの研修開始時点での参加者：11名] ■アイスブレイキング カード16枚を並べ替えて、グループ内で一つの文章を作るワーク。
12:41～	AMの振り返り。
	■ミニ講義[内容（コンテンツ）と過程（プロセス）、アイスブレイクについて] ★参加者より質問あり。 Q：プロセス次第で結果が良いものが出てくるのか。 A：テーマ次第である。生徒が何も持っていなければ出てこない。広いテーマ←→狭いテーマなど、良いコンテンツが出てくるように意識して問いを出すと良い。 Q：不本意な出席者にアイスブレイクを推そうとするのは気が引ける。いやいや来ている人（入ろうとしない人）に入ってもらうテクニックは？ A：参加者に応じて、持っているネタ10個中、1個使えれば良いのでは
13:15～	■ミニ講義の続き - 話し合い経過の見える化（書き出し）→声の大小・上下関係をなくす、「誰」よりも「何」、意見の見える化 - 書くときのコツ：発言者の言葉を生かす、キレイより早く など - グループ分け：4名だと均等な意見出し、6名だと発言トップと2位の差は倍になる。
13:23～	<気づいたこと> >>>>> - 他の意見に触発された。 - Fの役割が盛り上げ役だと思っていたが、設計の役割だと思った。→教員でもできる！ - 形式的にあてはめるのであればコンピューターでもできるが、方向づけはファシリテーターの腕の見せどころである。

13:38～	■えんたくん会議：2グループに分かれて実施。円状の模造紙に記入 テーマ：「今日これまで学んだことは、どう授業に応用したらいいか」 >>>>> ・質問を最初に示す。 ・目標を示す。 ・分からないところを気づかせ、表に出させる。 など
14:05～	「振り返りシート」に気づきを記入。→ペアで共有（3min）→ペアをチェンジ。 新しい相手に前の相手が話した内容を話す Exchange Viewpoints（3min）。
14:22～14:35	休憩＜サイコロで休憩時間決定＞
14:38～	[1名追加（AM参加者）] ■ロールプレイ／3名×4グループ ・「最初の4minで学生を参画させる方法」を個人で考える（30min）→グループ内での模擬講義（4min／人）→ポストイットに意見等を記入（フィードバック／3min）。
15:46～	AF 大竹さんの模擬講義［一年生物理］
15:54～	AF 関戸さんの模擬講義［先生を対象としたコミュニケーション講義］
16:20～	■本日の振り返り ・Revisit、応用、予習 ・「O：事実」「R：反応」「I：意味付け」「D：決断」 ・身体と口を動かす。 ・話し合いの相手、グループサイズを変化させる。
16:30～16:45	■トリオエクスチェンジ ・ここまですべてを振り返って自分でやってみたいこと／アイデアをグループ内で共有（4min）→特派員報告／一人はホストとして残り、他のグループから来たメンバーに報告。→他のグループに行った特派員メンバーが戻って様子を報告。
16:45～17:05	■クロージング／円座になり参加者全員（AF、オブザーバー含む）で、本日の感想等を発表。石崎先生の挨拶でクローズ。

■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気づき等）

＜F A J スタッフの感想＞

- ・今回は気心が知れている教職員同士が参加者だったので、和気あいあいの雰囲気良かった。
- ・参加者の人選が良かった。
- ・入念な準備が良かった。
- ・ファシリテーション導入に対する反論者として参加したという人がいたが、大きな問題はなかった
- ・今日の研修をそのまま自分の職場でも使いたい。
- ・アシストとして何をすれば良いかが事前に明確になっているとよかった。

以上

■事業の概要

□主催：武蔵野赤十字病院（看護管理者：看護係長研修）

□事業名：ファシリテーション研修・学びあい育ち合う学び場づくり～

□実施期間（企画・準備含む）：2014. 7. 18～ 日赤で会場見学をしながら打ち合わせを1回、その他担当者との打ち合わせ3回実施

□実施日・場所：武蔵野赤十字病院 山崎記念講堂

□参加者数：25名

□担当チーム（FAJ会員）：MF 浦山絵里 見学者 小西さん 飯田さん 横山さん

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：参加型研修

参加型の研修

たくさん参加者自身が話す体験をすることと、今後に活かす計画を立てることがゴールイメージ

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：病棟管理者として人材育成に活かすファシリテーションを学んでほしい。特に自律的なスタッフを育成するために、教えるから学び合う場づくりができるようにしていきたい。

②目的：看護専門職に必要な自律性・主体性を育む「支援」と「促進」を実践するためのファシリテーション技法を学び、演習を繰り返しながらその技法を習得する（告知文より）

③終了後に目指した姿（具体的に）：日常のカンファレンス等の時間をつかって、参加者がたくさん話せる「学び合う場づくり」ができる。スタッフがエンパワーされるチームづくりを考え、実際に関わら合う（具体的な行動レベルの）実践計画を立てることができる。

■ 終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

- ・ ファシリテーションを学ぶだけではなく、現状を振り返ることができた。
- ・ 実践に向けて、同じ課題をもっている仲間とグループワークができた、
- ・ なんども細やかに打ち合わせをしていくことで、プログラムの立て方を学ぶことができた。
- ・ 参加型の研修だったので、あっというまに時間が過ぎた。
- ・ 終了後にリフレクションをすることで、研修の企画についても学ぶことができた。（企画者）

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

7月より実施まで、リアルミーティングを4回実施した。企画とプログラムを企画担当者と実施することで、当日の運営がスムーズに進んだ。

□ 実施（支援）内容

- ・ OARR アイスブレイク グループわけ
- ・ 現状認知ワーク
- ・ ファシリテーションについてレクチャーと体験ワーク（個々までの体験振り返り）
- ・ 現状に使える場面を考えて、同じようなテーマ毎にグループをつくり作戦タイム
- ・ リフレクション 宣言&カタルタワーク

■ 担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気づき等）

～見学者飯田さんの記録～

【研修内容について】

・プログラム企画と構成について

研修担当者との入念な打ち合わせにより今回の研修の目標と期待される効果が明確に示され、プログラム全体を通して内容に反映しデザインされていた。

・ファシリテーターとしてのあり方

浦山さんのファシリテーションに対する考え方やスキルが存分に発揮され、参加者を巻き込みメリハリのある場の展開であった。また医療職としてのモデルとしても、素晴らしいものと受け取られていました。病院での勤務経験を活かした事例の提供だけでなく、豊富なファシリテータ経験や実績を体現して余りあるものでした。

・事前アンケートとコンセプト

研修前のアンケート記入で参加者（全員看護職）のファシリテーションのとらえ方は様々であるものの、育成に焦点を当て今回の研修を「学びあい育ちあいの場づくり」というコンセプトとしたことは職場に結びつく分かりやすいものとなっていた。

・ワークショップで会場を十分に活用

研修室の座席配置の変更や立って集まりサークルになったり、ホワイトボードを6台活用したりと、グループサイズに合わせ、広い室内を効果的に利用した体験型学習は参加者の学びを深めていた。

【見学しての感想】

・大規模基幹病院でありながら初めてのファシリテーション研修ということであり、医療機関でのファシリテーションへの関心が高いことを認識した。今後、コミュニケーション、チームづくり、安全医療、専門学習など各分野へのファシリテーション展開が進むと思われる。

・研修担当者との関係づくりはとても重要であり、今回双方で打ち合わせが十分になされ、プログラム作りからフィードバックに至るまで担当者と共有し、その場限りで終わらせない姿勢で臨まれていた。このことは、ファシ活への理解を深め、F A J への信頼性を高めることにもつながっていた。

・ファシリテーター浦山さんの配慮により、F A J 見学者をオープニングから終了までの間、途中で場に入ってサポートする機会を何度も設け、参加者にとって学習効果をもたらすことに多少なりとも貢献できたことは良かった。

【画像記録】



■事業の概要

□主催：福島県安達地区保健師連絡会

□事業名：「安達地区保健師連絡会研修会」

□参加者数：24人

□プログラムを担当したF A J会員

コーディネーター兼ファシリテーター：中西百合（東北スクエア）見学者：安井清孝（東北スクエア）

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

以前、厚生労働省の主催した研修会でF A J会員によるファシリテーション研修を受講。保健福祉業務には欠かせないスキルであると考えたが、本会（保健師連絡会）の会員のほとんどが、ファシリテーション講座を受講したことがないため、基礎や実践について学びたいと思い応募した。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：母子健診等や成人の事業（検診の事後指導等）でグループワークを実施することがあるが、特に若い方が対象の場合、発言等が少なく活性化しないことがある。また、ケース会議を開催する際の合意形成の仕方が分からないため、話し合いのコツを習得したい。

②ねらい：ファシリテーションの基本を知り、参加者が話しやすくなるような場づくりのコツを習得する。また、課題解決のフレームの一つを体験することで、話し合いのコツをつかんでもらう。

③成果イメージ：話し合いのコツを少なくとも一つはつかみ、実践に役立てられるようにする。

④成果（終了後）：参加者アンケートでは「特別なことではなく、お茶の置き方、席の配置、目的・目標を見えるようにする、話し合いを書くなど、すぐに実践できる内容で参考になった」「グループワークを通して、全員での一体感が持てたことは大きなエネルギーになった」「継続して学ぶことができた」と感じている」等の感想が寄せられた。

□形式： ●ワークショップ ●研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 11月5日

ミニレクチャー「ファシリテーションの基本のキ」

ワーク1「話しやすい場をつくるには」（アイスブレイクワーク）

ワーク2「話し合いのコツを考えよう」（話し合いの課題解決をお題にフレームワーク）

全体ふりかえり

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：講師の中西先生には、遠方よりおいで頂きありがとうございました。

「ファシリテーター：水先案内人」という研修を受けたことはあるものの、どちらかと言えば見守り的な消極的なイメージがありましたが、今回の内容は困難な事例や面談での合意形成にすぐにでも役立つヒントが散りばめられ、参加した会員の顔が一様に明るいものになっており、開催して良かったと思っています。

☆F A J会員：今までの行政職員としてのファシリテーター経験を活かすことができました。住民を対象としたワークショップを開催したときの失敗談やそこからの気づき、実践から得たちょっとしたコツなどを話した時に、参加者の方が身を乗り出して話を聴いてくれているのを感じ、達成感がありました。少し残念だったのは、時間が足りなかったこともあり、参加者とのコミュニケーションの時間

があまりとれなかったことです。

話しやすい場づくりあれこれを体感！フレームワークもやってみました。



ワーク1「話しやすい場をつくるには」

健診等ですぐに活用できる簡単なアイスブレイク「4マス自己紹介」「人間マトリックス」「バースデーライン」を経験してもらった。



場づくり：レイアウト

椅子の向きや距離感で話やすさがどう変わるかを、実際に体感してもらった。



ワーク2「話し合いのコツを考えよう」

後半戦はラベルを使ってフレームワークに挑戦。

●プロセス紹介

初めに、ミニレクチャーとして「ファシリテーションの基本のキ」を説明後、自分自身が大事にしている3つのポイント「場づくり」「傾聴」「見える化」について簡単に解説。ワーク1では場を温める手法としてのアイスブレイクを複数体験してもらった後、解説とほかの手法を簡単に説明。ワーク2では、問題解決型のフレームワークを使い、「話し合いをよりよくするには」をテーマにグループワーク。チェックアウトは全員で円になり、今後やってみたいことを宣言してもらった。

●担当メンバーのコメントなど

- ・これまでの行政職員としてのワークの経験を活かすことができました。余談ですが、今回の活動を職場の上司に報告したことで、自分の職場（福祉行政）の場でも、ファシリテーション勉強会を開催してほしいとのオファーを頂戴するという、二次的な効果も上げることができました。（MF：中西）
- ・2時間では時間足りずアウトラインを示したといった内容で、MFも消化不良だったと思います。冒頭の講義が若干長かったと思いますが、これまでの経験や保健福祉センターでの事例を熱心に語っていたので、共感を得ていたと思います。しいて言えば、講義の中でも、もう少し対話があったら更に良かったかなと思いました。グループワークでは、意見が食い違う状況はなかったので、ファシリテーションのダイナミズムを体験するところまではいかなかったと思いますが、もう少し時間がいろいろ仕込めたのだと想像します。（記録・見学：安井）

■事業の概要

- 主催：社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 かながわ福祉人材研修センター、福祉研修センター
□事業名：平成 26 年度ファシリテーション基礎研修

□実施期間（企画・準備含む）： 2014 年 10 月 9 日～12 月 15 日

□実施日・場所：2014 年 12 月 15 日（月曜日）10:00～17:00 神奈川県社会福祉会館

□参加者数： 66 名

□担当チーム（F A J 会員）：

メインファシリテーター：飯田正男

アシスタント： 中島美暁、津野哲、副島眞由美、 見学：木村孝、伊藤春美

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：

社会福祉施設のスタッフミーティングで、有効なミーティングが実施できる工夫を知り、グループワーク等を行い、実践的に指導してほしい。

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：中堅職員の方々が職場で活用するファシリテーションの考え方を知り、基本的なスキルを身につける機会を提供する。

②目的：スタッフミーティングでのファシリテーションとは何か、話し合いの進め方、また、ファシリテーション技術による具体的効果等について講義や実習で学ぶ。あわせて、グループワークを通じ、ファシリテーションを実践するためのスキルを身につけること。

③終了後に目指した姿（具体的に）：

- ・自ら、職場でファシリテーションを実施できるようになる。
- ・ファシリテーションを活用できる職場にしていく。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

主催者として、初めてのファシリテーション研修導入であり、初回の打ち合わせから研修の目的、ゴールなどファシリテーションへの理解をいただきながら企画を進めることができた。事前に参加者へ職場の話し合いについての課題を提出していただき、研修に対する具体的な期待を明確にして臨んでいただいた。そのことで各自の参加意欲も高く、ワークに際しては積極的かつ主体的に体験型学習をすすめることができた。

【実施後アンケート集計：5 段階（大変思う～思わない） ①講義の内容が明確であった：4.58 ②研修の内容が目標に合致していた：4.43 ③講義の内容が分かりやすかった：4.37 ④テキスト・資料などは役に立った：4.22 】

参加者のコメント（一部紹介）：「この研修を受けただけでファシリテーションができるとは思いませんでしたが、今後の業務に生かせることはたくさんありました。今後機会があれば研修を受けたいです。また自分でも努力しようと思います。」「聞くだけの内容ではなく、演習をすることにより身体を使って学ぶことができたことはよかった。考えていた以上にファシリテーターの役割が大きいことに驚いた。」

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

今案件ファシリテーター募集に際し、次の点を提案させていただいた。「・依頼者と提供者で課題を共有し、一緒に研修を実りあるものに作り上げていきます。・アシスタント、見学者とともに、チームとして企画、運営をファシリタティブにすすめていきます。（依頼者との面談、オンラインでの打ち合わせ、プログラムデザイン）・実施後の報告では、次に続く支援プログラム応募者にとって参考となるように協力支援をさせていただきます。」またアシスタントとして、ファシ活委員中島美暁さんにチームに加わっていただき、案件提供の体験と全体把握をお願いしました。

プロセス：

1. 10月09日 神奈川県社協 第1回打合せ：ファシリテーター挨拶、企画検討
2. 10月21日 アシスタント・見学者募集開始 F A J 全国ML
3. 11月05日 アシスタント 13名・見学者2名応募締切、11月8日選考決定
4. 11月11日 神奈川県社協 第2回打合せ：プログラム計画書、会場、準備打合せ
5. 11月22日 アシスタント・見学者オンラインミーティング：メンバー紹介、企画説明
6. 12月07日 アシスタント・見学者オンラインミーティング：プログラム内容、ワーク協議
7. 12月09日 神奈川県社協 第3回打合せ：参加者事前アンケート確認、最終準備確認

□実施（支援）内容

- 実施日 2014年12月15日 10時00分～17時00分 昼食休憩 12時00分～13時00分
- 会場 神奈川県社会福祉会館 4階 第1・2研修室
- 参加人数：66名 申込み者71名 当日欠席 5名
- スタッフ集合 08:45 当日打ち合わせ、会場準備
- 研修開始 10:00
- プログラム内容

I.オリエンテーション	説明	1. あいさつ 研修担当 鈴木さん 2. 講師チーム紹介、参加者同士挨拶 3. 今日の内容、グラドルール、スケジュール	全体概要を知る 最後のイメージがはっきりわかる。
ウォーミングアップ	ワーク	共通点探し 前後の席2人で一組	お互いに知り合う
グループ分け	ワーク	6人一組 グループでテーブル椅子の移動 スライドで配置指示	研修向きグループ
チェックイン	ワーク	グループで自己紹介 6人	チームビルディング
場のデザイン	説明	1. 空間のデザイン 2. チームの枠組み	チームビルディング
IIファシリテーション基礎知識	説明	1. ファシリテーション 2. ファシリテーター 3. 基本スキル 4. プロセス 5. 成功の循環 6. ファシリテーションの効果	基礎知識について理解する。

流れ星	ワーク	白紙に指示された絵を描く	・言葉の受け取り方が違うを知る
Ⅲ基本スキル 聞く	説明	1. コミュニケーション 2. 聞くこと	傾聴はコミュニケーションで一番重要
傾聴	ワーク	うなずきで聴く 2人一組 交替して2回 1回3分	うなづき、受けとめる
基本スキル 質問	説明	3. 質問すること	質問の仕方、種類を理解する
傾聴&質問	ワーク	傾聴後質問を使ってみる 3人一組 1回 5分 3回	質問で考えさせ、深める
昼食		Q&Aボードに付箋紙で質問を書く	
基本スキル 要約	説明	要約すること	要約の使い方を知る
要約する	ワーク	相手の話を聞いて要約する 2人一組 1回5分	要約を体験する
Ⅲ 基本スキル 議論の見える化	ワーク	話し合いをホワイトボード・模造紙に書く 3人一組 24グループ 1回5分 3人で振り返り 3分	見える化で整理する
見える化する	説明	見える化する理由と効果を解説する	ホワイトボードの活用を知る
Ⅳ会議3タイプ	説明	1. 会議の種類と参加者の関係による目的の違い 2. ファシリテーターの役割を確認	会議の種類別演習について事前知識を説明
グループ演習 Ⅰヨコ型会議	ワーク	ナースを探せ ファシリテーター演習 カード ワーク	ヨコ型会議で話し合いとファシリテーションを実習する
振り返り	説明／ ワーク	演習後の振り返り 個人／グループ	振り返りとFの必要性を理解する
休憩			
グループ演習 Ⅱななめ型会議	ワーク	E S従業員満足委員会 ファシリテーター演習	ななめ型会議で話し合いとファシリテーションを実習する
発表	ワーク	発表 各グループ	
振り返り	ワーク	演習後の振り返り 個人／グループ	振り返りとFの必要性を理解する
グループ分け	ワーク	職種別グループ 6人一組 全員立って 職種順に移動	

グループ演習 Ⅲタテ型会議	ワーク	新人指導者会議 職種別グループ	タテ型会議で話し合い とファシリテーション を実習する
振り返り	ワーク	演習後の振り返り 個人／グループ	振り返りとFの必要性 を理解する
G R P 演習ま とめ	説明	関係性アプローチ	ファシリテーター型リ ーダーを知る
クロージング	ワーク	シート記入 ファシリテーションを現場で使う ために	研修の振り返りと学習 成果を確認する
クロージング		Q & A ボードでの回答説明	

➤ 研修終了 17:00

➤ 終了後、スタッフでの振り返り、フィードバック 17:20～18:00

■担当チーム振り返り(現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気付き等)

◆チームでの振り返り プログラム内容と進行について

- ・参加者を巻き込みながら主体的に学び合う関係性を早く構築し、全体にスムーズに進んだ。
- ・現場を想定したワークで、実際の活用場面をイメージしながら実習できた。
- ・各ワークにおいて、参加者同士の振り返りは活発に行われそれぞれの体験も共有していた。
- ・講義とワークの中で学びを深める時間は限られており、不足を補う工夫と補足資料が必要だろう。
- ・参加者の理解度にはバラつきもみられ、それらをくみ取る解説や時間が有っても良かった。
- ・体験型学習ではワークの進行に関して時間管理が大切であり、アシスタントの協力により滞りなく進めすすめられた。
- ・グループ演習で会議の種類別ワークを体験し、その後に実践活用の講義がもう少しあればよかった。
- ・「ファシリテーションとは？」のインストラクションにもう一步明確な表現や例示など、伝え方に工夫があるとよいかと思われた。→ファシ活としてのコンテンツ統一があってもいいかと思う。
- ・全体をとおして体験学習とリフレクションで時間を多くとり学びを深めていった。しかし専門教育のテキストを期待された方には今回の資料では不足であったようだ。補足資料を配布し参考書籍も案内したが、内容の見直しと担当者との事前検討は必要だろう。

◆ファシリテーション活用支援プログラムに参加しての感想

☆アシスタント、見学者

- ・準備段階から場づくりの実践に参加できた感ももてたこと、当日のファシリテーションやプログラムデザイン、チームワークなど多くの気づきや学びを得ることができた。
- ・場づくりについては想定以上の成果がありました。特に事前に「アシスタント」「見学者」を巻き込んでのスタッフ連携。アイスブレイク、レイアウト転換の効果が高かったと思いました。
- ・MFの場での「あり方」が、参加者や私たちスタッフの自主性を引き出していました。メンバーや参加者を信頼されている結果と思いました。

- ・参加者の皆さんが積極的であり、前向きな考えが見え、尚且つそれをファシリテーションという手法で活かそうとしている気持ちが感じられた。

☆ファシリテーター

- ・主催者と入念に準備を重ね、F A J メンバーと共にチームをととして今回のファシ活参加を成し遂げたことは、これからのファシリテーション実践活動を展開する上で個人としてそしてF A J としての参考となれば幸いです。
- ・様々な分野でファシリテーション学習の関心が高まっており、普及を進める上でF A J の抱える課題を捉えた活動の見直しやプログラムの開発が求められていると感じています。具体的には、ファシリテーション基礎講座とファシ活支援の研修プログラムの相関性、講師派遣。
- ・私自身にとって、ファシリテーションへの知見や研鑽を引き続き学習していく良い機会となりました。特に初めてのメンバーとチームを創り、協働体制をもって、主催者に満足いただける研修を届けることができたことは素晴らしくF A J 会員でなければ成しえない体験でした。



上：オリエンテーション



上：グループづくり

下：見える化ワーク



グループ演習：従業員満足委員会



グループ演習：新人指導者会議

■事業の概要

□主催： 広島保護観察所 社会復帰調査官室

□事業名：ケア会議を進行するためのファシリテーション基礎講座

□実施期間（企画・準備含む）：

□実施日・場所：平成27年1月16日（金）13時30分～17時30分

□参加者数：24名

□担当チーム（FAJ会員）：

Fレンジャー： 谷川ひとみ（主担当）、山内圭子、吉田奈緒美

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：

ミニレクチャー・演習・振り返りを基本形としたワークショップ形式での研修（6人×4グループ）

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：社会復帰調査官という立場で対象となるケースの社会的困難さや、ケースに関わる関係機関の多様性、各専門職種間の相互理解の未成熟等の様々な課題がある中、社会復帰調査官は中心的な役割を担ってケース会議を運営していくことが求められている。しかし、現実的には各調査官によって経験やスキルに大きな開きがあり、共有化された方法論を持たないことによって各人バラバラに行っている実状がある。この改善を図りたい。

②目的：中国地方の保護観察所社会復帰調査官がケア会議の進行方法など基礎的な知識を学ぶことで、円滑で有意義な協議となることを目指す。

③終了後に目指した姿（具体的に）：ファシリテーションスキルを活用した会議を学び、体験することで、ファシリテーションをもっと理解し、使えるようになればケース会議がうまくできるようになるのでは！と感じられるようになる。

先に明るいものが見えてくることで、参加者が元気になっていき、学びへのモチベーションがさらに高まっていく。このような状態になることを期待した。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

参加者の振り返りでは、「ファシリテーションが会議を効果的に行うためにとても有効であることがわかった」「ホワイトボードを積極的に用いると有効と思った」「時間配分や役割分担することの重要性を実感することができた」「参加型の会議は楽しい」などの意見が出された。

主催者としては「ワークを通してチームの団結力が強まっていくことを体感できた」「研修時間中に参加者の成長を感じ取ることができ、スキルアップのプロセスを見ることができたのは良かった」「終了後、参加者の顔が生き生きとして、互いに声を掛け合ったり、片付けなどへの自主的参加、積極的関与が感じとれた」などの感想が得られ、今回の基礎的学びを基に、現場で実際に活用できるようスキルアップ研修を継続して行いたいとの意向が聞かれた。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

①依頼者との事前打ち合わせを2回行った。1回目(10/9)は事務的な事業実施に関する内容。2回目(11/4)は依頼者側5名の参加を得て、研修に期待する具体的な内容などのヒアリングを行った。

②Fレンジャー3名で研修企画会議5回(12/1, 12/8, 12/16, 12/25, 1/5 各回の所要時間約3～5時間)および、スカイプミーティング1回を実施した。

月日	会議の目的等
12/1	研修の大枠を考えることを目的とした。11月4日の打ち合わせ会議を振り返り、研修で取り扱いたい内容について発散し思いの共有化を図った。研修企画するうえで「知識をいかに実践レベルに結合させられるか」を課題としながらも、「最も単純化されたものを提供する」という鉄則を皆の共通認識とした。
12/8	研修の骨組みを膨らませ、担当を決めることを目的とした。研修の骨組みを決定し、「参加するのが楽しみになる会議を体験してもらうこと」「欲張らないこと」を再度チーム内で再確認した。得意とする内容やチャレンジしてみたい内容について各人の要望を出し合い、役割分担を行った。
12/16	コンテンツをさらに具体化させることを目的とした。この回は短時間であったため、見える化で取り扱うシナリオとそれによって描くジェノグラムやエコマップの確認を行った。
12/25	次回会議の時に研修資料が出来上がり、互いにチェックできるよう、各担当か所の内容をブラッシュアップすることを目的とした。各担当か所について取り扱う内容と時間配分、必要物品等について話し合い、次回までの宿題についても確認し合った。
1/5	資料の確認と、デモ会議やジェノグラム・エコマップ描きのリハーサルを行い確認した。資料の微調整はメールのやり取りでおこない、スカイプミーティングで最終確認を行う予定とした。

□実施（支援）内容

時間	内容
13:30～14:00	オープニング 研修ゴールの確認・今日の約束事確認・研修の流れの説明 アイスブレイク 1. ファシリテーションとは ・グループワーク「こんな会議はイヤだ！」 ・ミニレクチャー；ファシリテーションとは
14:00～14:50	デモンストレーション会議 ケア会議のデモンストレーション デモ会議を見て気づいたことをグループで話し合う 2. 場づくりのスキル ミニレクチャーとデモ会議の解説
14:50～15:00	休憩

15:00～16:50 (休憩10分含む)	3. 見える化のスキル ミニレクチャー：ホワイトボードの活用 ワーク① ジェノグラムとエコマップを描こう ワーク② 話し合いを描こう（GARRを活用して話し合いをする） ⇒どこでもシート利用 ワークの振り返り
16:50～17:30	研修全体のまとめと振り返り ・イヤな会議ワースト3に対する解決策をグループで話し合う⇒発表 ・振り返りシートの記入とグループ内共有 ・質疑応答

■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気づき等）

- ・参加者が前向きで明るい雰囲気がよかった。
 - ・参加者の理解度が高く、自らの問題解決の方法を見つけ出していた。
 - ・「見える化」の効果を実感するためには「発言内容を選びすぎないで書きとめる」ことも必要と思うが、「きれいに書く」ことに意識が向き、結果として発言を書けていない現象が見られた。次回、研修を提案する場合、「とにかく書く」という内容を盛り込む必要性を感じた。
 - ・個性や活動背景、考え方は違っても、お互いを尊敬・尊重し、本音で語り合い、アイディアを重ね合わしながら、柔軟に場をつくり上げていくFレンジャー3名のファシリタティブな関係性が、参加してくださった方たちに気づいてもらえれば嬉しいと思っていた。参加者からの振り返りシートでは、このことを感じとってもらえたことがうかがえるフィードバックをもらえたことがうれしかった。
 - ・時間とともに疲れるのではなく、どんどん参加者が元気になり、活性化していく様子が見られた。
 - ・今回は参加者の理解レベルが高かったため、指示や意図を素早く理解してもらえたが、同じことをどのように無駄なくわかりやすく伝えるのかというところを考えていきたいと思う。
 - ・研修講師として行う演習やそのセッティングには何等かの意図を含ませているが、そのことを主催者の中心人物に伝えるべきか、一参加者としてその場で体感いただく方が良いかの判断に迷うことがある。
 - ・主催者サイドの連絡調整について、先方の日常業務を乱さないようにとの思いで、主としてメールで行ったが、やはり文字による情報伝達には限界があり、連絡手段の選択について悩ましいと感じられることもあった。
 - ・チームで研修を行うことのメリットを数多く実感できる機会となった。
- ＊見学者（梅谷秀治@ファシ活委担当）所感
- ・Fレンジャーのチームワークが素晴らしい、また主催者側の担当者もたいへん協力的だった。
 - ・中国地方各地から参加した受講者も積極的で今後につながる場が創れたと感じた。
 - ・ロールプレイ（デモンストレーション会議）のシナリオが素晴らしかった。谷川さんが福祉分野で活動している経験が活かされていた。

■事業の概要

□主催：小平市上水南公民館

□事業名：ファシリテーション入門講座 <意見が活発になる話し合いの進め方>（研修）

□実施期間（企画・準備含む）：2014年9月13日～2015年3月7日

□実施日・場所：2015年1月31日、2月7日、2月14日、
2月28日、3月7日（土）午前10時～12時半

上水南公民館 大会議室

□参加者数： のべ88名

□担当チーム（F A J会員）： メインファシリテーター：
向山 聡 三田地真実

アシスタント： 馬場貴子、梅谷秀治

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：

研修 市民活動を活性化させるツールとして企画。



■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景： 小平市には、11館の公民館があるが、過去に公民館でファシリテーション講座は実施されていないとのこと（他で受講した方も少ないと思われる）。別講座での進め方等で「ファシリテーション」という言葉を知り、F A Jを調べ「ファシリテーション活用支援プログラム」を知って申込を行った。

②目的： 地域の話合いや職場の会議の進行で、うまく舵取りをする方法・スキルを提供したい。その上で、「話し合いの場をうまく進めることができる人材を育成していきたい。土曜日の午前を設定したのは、「公民館の一般的な利用者である高齢者ばかりでなく、勤労者の参画を推進する」意図がある。講座運営の中で、疎遠な方々を引き込んで、公民館の活動への協力者を増やしたい。

③終了後に目指した姿： 次の状態を参加者全員が目指す姿として設定した：自らが参加する地域や団体で、活発な意見を引き出した会議を行えるようになっていること（話し合いが予定していた方向に収まらなくても、焦らずに対応をしていくことができる）／また、上位の方々に対する上位目標も設定した：話し合いを対立ではなく、共有と課題解決の場にしていくスタンスとスキルを身に付けること（事前準備、議論の見える化を進められること。基本的なファシリテーション技術やフセン利用ができる）

■終了後の感想（担当者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

今回の講座は、地域や職場等で、話し合いを通じて個々の知恵とエネルギーを上手に引き出し、うまくことが運ぶように舵取りの役割を果たす事ができる人材育成の必要性を感じて企画しました。向山さんのお話も分かりやすく、内容とグループワークのバランスの良さ、参加者一人ひとりが受け身にならずに積極的に参加している姿勢に「活気」を強く感じました。回数を重ねるごとに、和やかな中にも参加者はお互いの意見を言い合える良い雰囲気もできて、出席率は80%と高く、担当者としては大変嬉しく感じました。今後は、参加者各自が活動する地域や職場等で、講座で学んだことを生かして活躍してくださると期待しています。向山さんをはじめアシスタントの方々には感謝申し上げます。

（参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

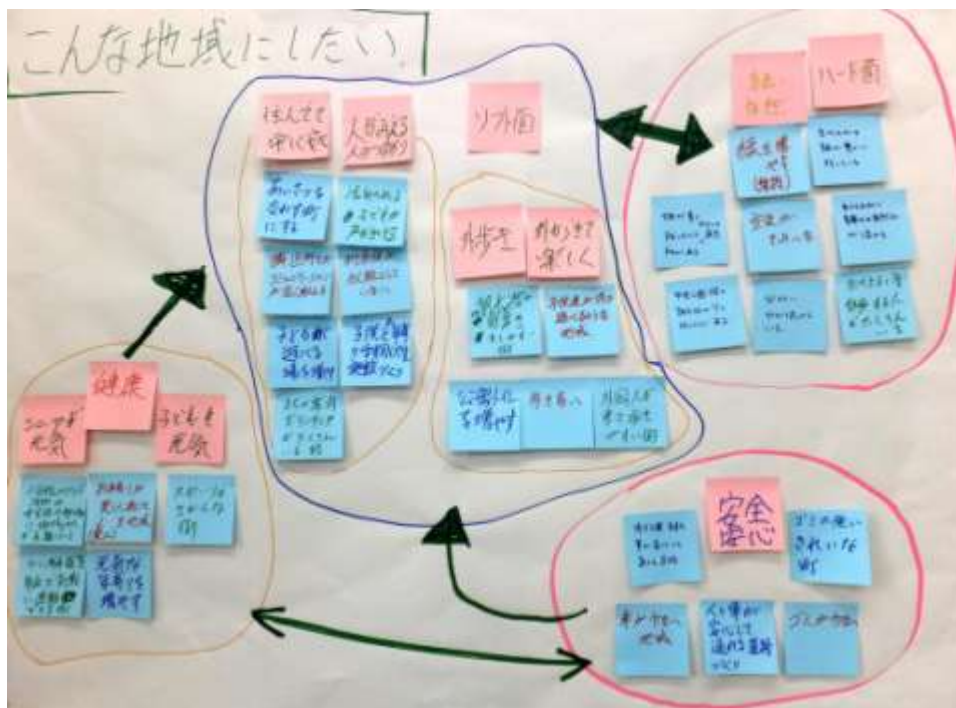
・参加者のアイデアがすごく新鮮で、いろんな角度からものごとを見ているということを改めて感じま

した。多角的なアイデアをどのように取り入れて行けばよいのかを考えていくことが今後の課題です。

- ・振り返り1つとっても切り口が様々で、なるほどが多かった。全体的には時間に余裕もあり良かった。
- ・話し合いは人対人の場であり、参加している人の考えをいかに引き出していくことが大切だと考えている。その話し合いの進め方を実際にワークを通じて学んでいきたい。



- ・様々な意見があるが、いい・わるいで判断しないことが大切。自分の価値観は置いて出た意見すべてを尊重することが大事だと思います。人の意見が聴けるようにメモ取りを心がけようと思います。
- ・役割を決めてする話し合いは効率的。更にグランドルールも決める。
- ・ファシリテーター、グラフィッカーは緊張しますが受身体制がずっとびます。
- ・ただ座ってお話を聞くのではなくワークを通して学べるのが楽しいです。
- ・自分がファシリテーターの時には緊張、中立の難しさを感じた。発言者の言葉が詰まった時「声をかけて良いのか」迷いました。
- ・いすの並べ方だけでも様々な効果が生じることがわかりました。全員が積極的に参加していいなと思いました。プロセスウォッチャーの仕事は大変そうだなと思いました。
- ・話し合いそのものにも熱が入りましたが、会議の流れにも気をつけていきました。
- ・「チェックイン」をすることで、人前で話すことへの事前準備となったと思うので、今後も場づくりの為にこの方法を用いてみようと感じた。机をはさんでの方法よりも車座のような形式を用いることで、相手との距離感が近くなると感じたので今後役に立ててみたい。
- ・フセンを作って自分の意見を書くことでいろいろなアイデアや意見が出た。又、人の意見を聞くだけでなくフセンに書かれた内容を見ることで活発なワークになったと思う。プロセスウォッチャーも良く時系列で観察記録がまとめられておりグループワーク中何があつたのかが客観的に理解できた。
- ・プロセスをしっかりと見ていくこと、コンテンツを見ていくことを、しっかり意識していくことが重要だと思った。特にプロセスに目が行かない。そして、同じプロセスであっても一人一人感じ方が違うというところに気付いた。ファシンの目配りが大変そう。
- ・グラフ化を上手に使用することで、話し合いが確認しながら冷静に整理されていくことが分かりました。今まで議事録は面倒なことだけとっていました。板書もなんと有効な手段でしょうか！ 自治会長である私は地域福祉活動はメインテーマの1つであります。もっと皆様からアイデアをいただきたいと思いました。



・参加者が受け身だけでなく積極的に参加、受講という姿勢を感じました。お互いの参加者の良い刺激になっていると思いました。講師からの講義とグループワークのバランスの良いと思いました。

・ファシリテーションを今後に活用できるとよいと思いました。講師の先生方のお話がとてもわかりやすく楽しく受講でき、感謝しております。

・現役で会社勤めの方や活動するグループをもっている方が殆どで、そこでファシリテーションをやってみての体験から出る内容となっていた。今後に向けて、こうやってみたい…という積極的な意見と気持ちをもって最後の講座が終わったように思う。

さらに良くするには（個別に全て対応をしています）

- ・グループワークの時に、ちょっとしたアドバイスとかコメントをはさんでいただけたら良かった。
- ・グラフィッカーの時は、書くことに夢中、思い通りに書けたのか又正しく書けているのか同じ言葉の表現の違い等があった。
- ・タイムキーパーとしての役割について、もう少し説明を頂きたかった。ただ時間を管理するだけで無く、他の役割があるのでは？と思いました。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

- 9月13日：MFと担当ファシ活委員が実施会場で公民館・担当者と打ち合わせ。先方要望等の聴取を行う。当初、2時間×6回での企画を2.5時間×5回とする内容を提案。了解を得る。
- 9月17日：要望を受けた形で、全体グランドデザイン案をMFより提供。
- 10月18日：グランドデザイン案に沿った形で、公民館より開催要領提供。調整を行う。
- 11月22日：市広報等に掲載する内容等を調整、案内用配布チラシの内容等も調整・確定。
- 12月4日：プログラム案作りでMFワーク実施。
- 1月10日：MFがアシスタント公募を実施。3名が応募、2名を決定。
- 1月15日：MFと公民館で最終打ち合わせ。初回のプログラム内容等確認。
- 1月27日：MFとアシスタント、スカイプで打ち合わせ。実施要領等の説明・共有。
- 1月31日：MFとアシスタント、当日、早めに集合し、内容確認。当日、講習実施。
- 3月7日：全5回のプログラムが無事に終了。公民館担当からも「サークル化を中心にした継続的な活動実施とそれに伴う支援」を求められる。

□実施（支援）内容

日程・主テーマ	レクチャー	ワーク1	ワーク2
第1日[1/31日] 意見の出やすい環境作り(活発な話し合いの体験)	「ファシリテーションの基本」 ●中立的な立場で引き出す役に ●「感謝の気持ち」「なるほど」「柔らかい表情」などをやってみる	「自己紹介」 ●自分を飾らず話して、自己開示をしてみる ●相手の話に関心持つ	「新聞タイトル決め」 ●とにかく書く ●書いたことを材料にまとめる(発散と収束)
第2日[2/7日] 出た意見、アイデアを無駄にしない話し合い	「ファシリテーターの振る舞い」 ●自分の状態を考え、意識すること(やること)を決める ●「予定通り」からガードレールへ	「他己紹介」 ●相手の話を聴く ●伝えたいポイント絞り	「防災ゲーム」 ●異なる意見でも、理由や背景を引き出す ●議事録型で書く
第3日[2/14日] 納得のいく話し合いを進めるための場づくり	「場作り」「プロセスを見る」 ●話し合いのレイアウトを変える ●「もやしのお約束」を示してみる ●話し合いの状況を客観視して書いてみる	「チェックイン」 ●「ひとこと話す」ことの効果を意識する ●距離感やレイアウトの違いを意識して工夫	「フセンワーク」 ●アイデアを1件ずつ、バラバラに出す ●書いた内容を共有しながら、まとめてみる
第4日[2/28日] 脱線しない話し合いの進め方	「グラフィックで進行をする」 ●3種類の書き方と利用法 ●発散時、収束時で異なるルール	「2分法を使った表記」 ●話を分けて書く ●異なる論点は横に置く	「中心法を使った表記」 ●中心と関係のある内容に集中する
第5日[3/7日] 行動、活動につながる話し合いのまとめ方	「構造化の理解」「まとめ」 ●約束事などの重要性を確認 ●本音を引き出せれば合意できる ●交通整理をするための構造化	「チェックイン」 ●ポイントを絞って話をする ●他者に共感して聴く	「KPTワーク」 ●現在の状況を確認 ●“できないことをやる”ではなく“少し良くする”

元々の要請が「2時間×6回でF A Jのファシリテーション基礎講座と同等の講座を実施して欲しい」というものであった。毎週6回行うということは、受講生にとっても負担になり易く、また各回2時間ではワーク等をじっくり行えなくなる可能性が高かったため、「2.5時間×5回」という設定への変更を提案し、了承を得た。講座の到達ゴールについては、あらゆる市民が参加できる受講料無料の講座であるため、「ファシリテーション基礎講座」と同等のレベルを設定することは困難であることを伝え、「自らが参加する地域や団体で、活発な意見を引き出した会議を行えるようになっていること」という形のゴール設定で合意を取ることができた。

講師側としても、5回・6回連続だと、冬場で講師が健康を害する可能性もあるため、当初から「ペアのファシリテーターで運用する」という構想を持ち、取り組むこととした。この部分は、「ファシ活としても新しい取り組み」になり、今後に想定される長期の研修要請などにも耐えうる体制構築になるという想定である。この部分は様々な調整を行ったが、市民向け講座の経験量や「プログラムの作り方」などでの差異を十分に解消することができなかったこともあり、主MF・向山のプログラム企画を主体した構成を使うこととなった。プログラム作りの面において、課題は残ったと言える。

構成したプログラムは、レクチャー時間を極力少なくして、ワークを中心に行うものとした。各日にテーマを設定し、そのテーマに沿った話材、ワークツールなどの設定を行っている。また、ワーク自体も「話し合いを書く」ということに重点を置き、グラフィック経験を何度も行うことで、書くことへの抵抗感を下げていくことを図っている。また、3日目以降のワークでは話し合いを外から記録する「プロセスウォッチャー」を交代で担って頂く仕掛けとし、「プロセスを見る」ということへの意識を参加者に持って頂くようにしている。

■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気づき等）

（向山 聡：MF）他でも進めている「地域でのファシリテーションの地道な普及」に沿っている内容であるため、これまで実施してきているプログラムを発展させる形で進めました。

難しかった部分は、「参加動機や環境も異なる方々に、毎週、楽しみながら学んでいただく」という構成面でした。「参加者の関心が高くて、話したくなる話材」の探索と、その内容をワークショップに組み込む部分への配慮を進めることに悩み、格闘しました。

進行においては、公民館担当者の山崎氏が集客にも努力をされ、地域公民館であるにも拘らず定員いっぱいの参加者が集まりました。当初想定をしていた「関心はないけれど、暇だから参加する」というような方がおらず、「講座で学んだことを、すぐにも活かしていきたい」という意思をお持ちの方々が多かったことが、講座がより良いものになった大きな要因と思われます。

講座が終了した3月時点でまだ未確定部分は残りますが、受講したメンバー中心に「ファシリテーションサークル」が発足する見込みです。当初から狙いとしている「地域で主体的にファシリテーションを進めようとするメンバーの拡大」を実践できると考えられ、大いに楽しみにしています。

最後に、チームで協力頂いたメンバーへの感謝と共に、チームメンバーの欠員が発生した第2回研修に急遽支援をして頂いた会員の近藤高史さんにさらに大きな感謝をしたいと思います。



（三田地真実：MF）

1) 全体の運営について

今回は、MF2名に加えて、ファシ活委員1名、アシスタント1名が運営に関わった。このメンバーのチームワークはとてもよく取れていたと感じている。

2) MFを2名で行うメリット

- ・いろいろなパターンのファシリテーションを参加者に体感してもらえる。
- ・今回のような長期の講座（約2ヶ月に渡って、5回連続の講座）では、体調不良などでどちらかが登板できないときに補い合うことができる。

3) MFを2名で行う際の留意点

- ・両者のファシリテーションに対する基本的哲学が揃っていることが必須。
- ・企画・運営について、忌憚のない意見を言い合えるだけの関係性がないと講座当日のスムーズな運営は難しいと考える。今回のMF二名はFAJの他の活動を5年以上共にやってきた経歴があったので、信頼関係を損なうことなく意見を出し合うことができたと考える。もし、MFをそれぞれ募集し、全く面識がない者同士、あるいはほとんど知らないというレベルでこれだけ密度の濃い内容を行うことは不可能ではないだろうが、ハードルは高いと考える。

4) 以上から示唆される点

- ・今後、MFを複数名で運営する際には、よく見知った者同士でチームを結成しての応募という形態も考えられるのではないか。(今回もお互いにチームで行うことは前提で、それぞれが応募したという経緯はあった。)
- ・また、今回はMF2名以外に、ファシ活担当者、アシスタントの方も準備から一緒に併走してくださったことが、大変良かったと思う。MFに対して客観的なフィードバックを折りにしてくださったことはMFの軌道修正に役立った。

(馬場貴子) 受講者の皆さんがとても熱心で、ほとんど全員が継続参加され、感想にも充実感が多く語られていました。その主因は、個性の異なる講師がファシリテーションを違う切り口から伝えることによって、手法とプロセス、見せ方と心の持ちようといった重層的な伝達がより効果的に行われたことと考えます。それが、ファシリテーションの言葉自体初めてという過半数の受講者にも無理のない分量と内容に調整され、ワークの課題も地域に根ざした選択となっており各グループとも話し合いが大変盛り上がっていました。5回、合計12.5時間という恵まれた時間構成が十分に活かされ、市民の主体的なまちづくりのツールとしてファシリテーションが定着していく予感をおぼえました。

私自身は、アシスタントは初経験で全てが良い学びでした。講師にとって、受講者にとってよりよいアシストは何なのか、さらに整理し次回に期したいと思っております。

(梅谷秀治) わたしは1・3・5回目に参加しました。地域のさまざまなF研修機会に顔を出すケースが多い方だと自認していますが、今回の小平講座はそのなかで指折りの講座でした。

なによりMFのむーたさんとさらださんとのやりとりは、講座に真摯に向かい合うお二人の姿勢がそのまま映り出され、時には迷惑と思いましたが、貴重な時間をいただきました。参加者も熱心な山崎さんの後押しを受け、楽しんで参加していることが読み取れ、こちらまで楽しくなりました。

要は今後ですね。当初の狙いであった講座後の継続活動が始まったばかりですが、「継続は力なり」、そして同時に「楽しくなければ続かないよ」ですね。毎回の楽しさをどう創っていくか、小平モデルを参加者のみなさんと一緒に試行錯誤を重ねて、新たな気づきを教えていただけることを期待しています。



■事業の概要

□主催：いそご区民活動支援センター

□事業名：ファシリテーション・スキル入門 <意見を引き出し 活動を活性化させよう！>（研修）

□実施期間（企画・準備含む）：2014年12月3日～2015年2月6日

□実施日・場所：2015年2月6日（土）午後1時～午後4時

いそご区民活動支援センター 会議室

□参加者数： 17名

□担当チーム（FAJ会員）： メインファシリテーター： 向山 聡

アシスタント： 飯田正男、中島 美暁（コーディネータ兼）

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：

研修 区民活動を活性化させるツールとして企画。



■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

- ①背景： 区民活動支援センターは、地域での自主的な活動推進を支援することが目的の組織。地域でのサークル等は団塊世代などの取り込みが不十分で、高齢化・固定化が進んでおり、世代交代等が課題になっている。現状を解決するために、「話し方講座」等のスキル系研修を年に1回程度開催している。
- ②目的： 地域での活動を活性化していくスキルとして「ファシリテーション」に着目し、組織内や地域での話し合いの場をうまく進める人材を育成できれば、課題の世代交代等もスムーズに進むと考える。
- ③終了後に目指した姿（具体的に）： 次の状態を目指す姿として設定した：自分が参画する話し合いで、「なるほど」「面白いね」等の発言ができ、以前より明るい雰囲気を作れている。

■終了後の感想（参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

良かったところ（改善要望はありませんでした）

- ・ファシリテーターの概要が理解できた／ファシリテーターの具体を知ることができた／ファシリテーターの大切さを改めて学ぶことができた／基本を学べた／ファシリテーターの考え方を再発見できた／“いつもの会議”と“ファシリテーション”の違いが“なるほど！”と思った
- ・具体的なスキルを実践で教わることができた／各人の考えを引き出すところ／なるほど、ナルホド／継続できると思った／付せんに書いていくうちに様々な意見が出てくるところがおもしろかった／関係ないと思っていたことが実はつながっていたりするのも良かった／他人とのコミュニケーションの中で円滑にできそうだった。
- ・この手法を採用すれば参加者の胸中が解放されるのではないかと考えた
- ・地域で講習会を催す際、話しやすい雰囲気をつくることに興味が沸いた
- ・今までの自分のやり方を反省し、他のメンバーのよいところを真似したい
- ・結論ありき！と自分で決めてしまっただけで各論をつなぎ合わせてしまう癖はNGだと思った
- ・今までの自分の考え方がいかに狭かったことを考えさせられた。

今後に期待をするところ

- ・続きがあれば参加したい／より詳しい今回の続編／ファシリテーションその2／今回の続きなど地域

活動に活かせる講座などを期待する

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

12月3日：MFとCOが実施会場で区民センター・担当者と打ち合わせ。先方要望等の聴取を行う。

12月12日：市広報等に掲載する内容等を調整、案内用配布チラシの内容等も調整・確定。

1月10日：MFがアシスタント公募を実施。2名が応募。2名を決定。

1月27日：MFとアシスタント、スカイプで打ち合わせ。実施要領等の説明・共有。

2月6日：MFとアシスタント、当日、早めに集合し、食事をしながら内容確認。当日、講習実施。

□実施（支援）内容

元々の要請が「3時間でファシリテーションの概要がわかるようにしたい」「地域活動ですぐに使えるスキルを提供したい」というものでした。限られた時間内で、重点と考えられるエッセンスを伝えと共、各人に持ち帰ってもらうことを絞って、体感的にわかって頂くという想定でプログラムを設定しました。

レクチャは、印象強く絞った内容を短時間で提供し、ワークを重点にしました。「場のデザイン」の理解を意識して、円座のチェックインを行い、



講座開始時にはなかなか場に馴染めなかった方々も、講座が進むにつれ、積極的な意見交換をはじめ、多くのメンバーが昔からの知り合いのような雰囲気になり、講座が終了しました。話し合った内容を写真に撮って帰る方々も多く、参加したことによる成果を多く感じて頂けたと思われます。

時間	内容	狙い・説明
13:00	オリエンテーション・説明	講座の概要、スケジュール等の説明・理解
13:10	グループ分け、自己紹介（ワーク1）	初めて会うような方と、少し知り合う一話しやすい場づくり
13:30	ミニレクチャ1：ファシリテーションとは？	何に役立つ？これまでと違いは？話し合いの「基本的な流れ」の理解等
14:00	ワーク2（アイデア出し）	「フセン」を用いて、活発な意見交換、発散を楽しむ
14:30	休憩＆他グループ見学	他グループの状況、内容を学習
14:45	ミニレクチャ2：ファシリテーションを進める基本	ファシリテーターの振るまい～「準備と心構え」を学ぶ
15:00	ワーク3（対応策作り）	「フセン」でまとめた内容を実現するための対応策を検討する
15:30	グループ発表	要点をまとめて発表
15:50	「振り返り」のチャレンジ	「内容」ではなく、「進め方」や「展開・プロセス」について思い出す
16:00	講座終了	

フセンによるワークで「5年後に地域がどうなっていたら良いか」を書いていきました。後半のワークでは、フセンでまとめた内容を転記するような形で、「実現するための対策・具体策」を考えて頂くという設定をしました。



■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気づき等）

（向山 聡：MF）他でも進めている「地域でのファシリテーションの地道な普及」に沿っている内容であるため、これまで実施してきているプログラムを援用する形で進めました。難しかった部分は「2時間でファシリテーションの効用を感じて頂く」という部分と共に「地域サークルの世代交代などに、話し合いのスキル向上は効果がある」ということを理解して頂くことでした。



講座プログラム自体は非常に高く評価を頂き、支援センターの方からも「今後の継続的な協力をお願いしたい」などの依頼も頂きました。

自らに振り返ってみると、プログラムを設計していく際に「ファシリテーションを理解してもらうためのワーク」に「実際に現場で起きている事例・事象」を組み込むというやり方をしているため、どうしても参加者がコンテンツの側に引き込まれてしまう傾向があり、ここに課題が残りました。コンテンツとの切り離しをどのようにやっていくべきか、悩ましく思います。

（飯田正男）開始時に目的を共有し、ほとんど初めてファシリテーションを体験する参加者にとって分かりやすい講義と楽しみながら取り組むことができる実習のプログラムだった。MFの進行をサポートしながら、参加者のテーブルに加わり体験学習を補佐することでアシスタントの役割を果たすことができた。

地方自治体の各団体でファシリテーションへの関心が高まっており、横浜市の一地区センターに留まらず今回と同様の支援依頼が潜在していると思慮します。各種ファシ活プログラム要請に対応できる、FAJの体制を整える必要があると考え、早急な企画、運営の見直しをされることを提案させて頂きました。

（中島 美暁）今回の案件はファシ活担当としてコーディネートの部分から関わらせていただきました。先方の要望が明確で、条件もはっきりしていましたので、準備については比較的スムーズに進めることができたと思われました。

心配だったのは、区報による公募ということで、「何人集まるのか」「どんな人たちが参加するのか」「ファシリテーションへの期待度や講座への参加意欲、終了後の活用意欲やそのばらつきはどうか？」といったところに直前まで懸念がありましたが、結果的にはそのあたりのばらつきは多少ありながらも、ファシリテーションへの関心や意欲はそれなりにお持ちの方々が集まり、MF 向山さんのパフォーマンスも合致して、全体の満足度を作ることができたと感じられました。

また、アシスタントが2名つくことができたのも、全体への目配りの部分で必要だったと感じられました。意識やスキルにばらつきのあるグループではどうしてもワークがうまく進められない部分もあったので、目が行き届いた点はよかったと感じられました。

アンケートを拝見すると、「続編を希望」という声が複数きかれています。3時間という時間ではなかなか伝えきれていないということもあり、ぜひ今後も継続して支援できればと思います。

■事業の概要

□主催：大津市教育委員会

□事業名：公民館を支える応援隊養成講座

□実施期間（企画・準備含む）：

□実施日・場所：2015年2月27日、明日都浜大津「ふれあいプラザホール」

□参加者数：50名（1回目：26名、2回目：24名）

□担当チーム（FAJ会員）：

ファシリテーター：佐野岳章（関西支部）

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：

4、5人のグループを組みアイスブレイク体験、会議実習を中心にしたワークショップ形式。

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：

大津市には公民館が35館あり、まちづくり、生涯学習の拠点として講座などを行っている。行政職員だけでなく地域の方にも力を発揮してもらうことを目的に、2013年から応援隊を組織している。しかし、応援隊としての活動参加に消極的なところがある。ファシリテーションのことは、よく分かっているが、講座の運営や応援隊同士のコミュニケーションにも役立つのではと期待して、ファシ活に申し込みました。

②目的：

- ① ファシリテーションのことが少しわかったような気になる。
- ② 講座で使える参加者同士をつなぐワザを体験して知る。
- ③ 効果的に会議を進めるためのコツを3つ知る。

③終了後に目指した姿（具体的に）：

応援隊が主体的に講座を企画、運営できるようになっている（欲しい）。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

（成果）

「ファシリテーションという言葉は初めてでどんなものか興味ありました。いろいろ体験がおもしろくとても有意義だったと思う」「なんとなくファシリテーションというものがわかった。言葉のかけ方や、盛り上げ方等体験してわかった」「楽しく会を運営するノウハウを頂いた。手を重ねるゲームを早速実施したい」「テーマを基に思いつくことを挙げていくワークは自分の仕事に活かせると思った」「会議の進め方がとても具体的でよかった」「オープンクエスチョン、クローズドクエスチョンを今後に生かしたい」（改善点）

「まねをしたいが先生のように上手にすすめられないと思う」

「もう少し時間をとり、より深く理解できたらよいと思う」「時間が少し短い」

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

2015 年 1 月 9 日 大津市役所で打合せ。その後、メールと電話で打合せ。

□実施（支援）内容

1 回目「温かい場をつくろう」

- ・ 目的の共有、プログラム、ルール、心構えの共有
- ・ 名札づくり
- ・ ファシリテーションとは（レクチャー）
- ・ ペアコミュニケーション（体験）
- ・ ハイ、イハ（体験）
- ・ 4 つの窓（体験）
- ・ 連想ゲーム（体験）
- ・ ふり返り



2 回目「上手な話し合いの進め方」

- ・ 目的の共有、プログラム、ルール、心構えの共有
- ・ ペアコミュニケーション
- ・ 応援隊の体験談（主催者のプログラム）
- ・ 前回のふり返り
- ・ 会議度チェック
- ・ 会議のコツ（レクチャー）
- ・ オープンクエスションの練習
- ・ 会議実習
- ・ ふり返り



■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気づき等）

ファシ活見学者 (FAJ 会員) から率直なフィードバックをもらえたことが、一番の良かった点です。また、見学の方にとっても、研修後のふり返りの時間は「学び」の時間であったようです。

■事業の概要

□主催：岩手県久慈市 総合政策部政策推進課

□事業名：まちづくりファシリテーター養成講座

□実施期間（企画・準備含む）：2014年12月～2015年2月

□実施日・場所：2015年2月18日（午後）、19日（終日） 久慈市水道事業所2階大会議室

□参加者数：市民、職員、議員等 約30名（途中一部参加の人を含む）

□担当チーム（FAJ会員）：徳田太郎（メイン・ファシリテーター／講師）

梅谷秀治（コーディネーター）、加藤貴美子（アシスタント）

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：ファシリテーション基礎研修

タイトル：話し合いの場をより活発&効果的に！～ファシリテーターって何？～

「会議のポテンシャルを引き出そう」シリーズ・第1回

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：

久慈市総合計画を定めるにあたり、人口減少や財政難などの市を取り巻く課題を共有したうえで、市民と行政が目指すべき方向性について住民参加を得て合意形成を図りながら、取り組むことが重要と考えており、その際にファシリテーションの手法を活用したいと考えている。また、久慈市は議会改革に取り組んできており、昨年、市民と議会議員が協働して市政テーマについて話し合う場（「かだって会議」）を開催している。（ワールドカフェ・スタイルを用いて実施）

②目的：

幅広く住民の声を受けてこれからのまちづくりを行っていくに当たり、ファシリテーションに対する行政職員の理解を深めるとともに、ファシリテーターを養成したい。

③終了後に目指した姿（具体的に）：

プログラムのアウトカム：「ファシリテーション」のやり方、あり方を『身近な話し合いの場で実践してみよう！』という気持ちになっている！

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

（主催者実施のアンケートより）

○ファシリテーションの重要性を認識することができましたか？ （平均：1.56）

○ファシリテーションについて今後実践してみたいと思うことができましたか？ （平均：1.31）

1 できた 2 ややできた 3 ふつう 4 ややできなかった 5 できなかった

（参加者の主なコメント）

- ・今後、少しずつ活かせることができそう、楽しい内容だった。
- ・自分の中でははっきりしなかった「ファシリテーターの役割」というものが、明らかになり、大変勉強になった。
- ・話し合いをスムーズに進めるにはいろんな工夫ができると分かった。
- ・話し方やあまちゃんの話で親しみやすさを感じ、肩に力を入れずに研修を楽しむことができた。
- ・アウトプット（生み出す効果）とアウトカム（得られる状態）を常に頭においてファシリテーションを実施することが重要。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

2015 年 1 月 7 日：久慈市担当者と MF、コーディネーターで打ち合わせを実施（東京）

1 月下旬～2 月上旬：研修内容の設計、先方担当者と調整（主にメールで実施）

2 月 18 日：9:10～9:30 MF、コーディネーター、アシスタントで宿泊先にて事前打ち合わせ。

10:00～久慈市役所にて、久慈市長にご挨拶をし、その後、今回の研修担当グループの皆さんと事前打ち合わせを実施

13:00～17:00 研修実施（1 日目） 終了後、参加者の皆さんとの懇親会に参加。

2 月 19 日：9:00～17:00 研修実施（2 日目）

□実施（支援）内容（当日の主なプログラム）

2 月 18 日（水）13:00～17:00

- ・ファシリテーションについて（ミニ講義）
- ・どのようにファシリテーションするか① 話し合いの場づくり
- ・ミニ演習とふりかえり

2 月 19 日（木）9:00～17:00（お昼 1 時間休憩）

- ・どのようにファシリテーションするか② 話し合いの活性化
- ・ミニ演習とふりかえり
- ・どのようにファシリテーションするか③ 話し合いの構造化
- ・ミニ演習とふりかえり
- ・どのようにファシリテーションするか④ 対立解消・合意形成
- ・ミニ演習とふりかえり
- ・講座のおわりに（Q&A、アンケート等）



【オリエンテーション】



【レクチャーの様子】



【グループワークの様子】

■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気づき等）

久慈市では、議員の皆さんと市民との対話の場（「かだつて会議」）が実施されているせいか、研修への導入が比較的、スムーズだったと感じた。議会議員、職員の皆さんが、とても熱心かつ楽しんでグループワーク等に取り組まれ、アンケートにあるように、講座に参加した満足度が高く、次回以降の継続的な学びの場に対する期待が感じられた。参加者と一緒にグループワークを経験する中で、現場におけるファシリテーションの必要性についても実感することができた。（加藤）

■事業の概要

□主催：東京工業大学 社会理工学研究科 価値システム専攻 坂野研究室

□事業名：Web 会議システムを使った討議型世論調査（DP）

□実施期間（企画・準備含む）：平成26年10月21日～平成27年3月1日

□実施日・場所：平成27年3月1日・「Studio Oct」 渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー17F

□参加者数：108名

モデレーター：朝尾直太、岩渕直樹、遠藤紀子、小野澤興平、小笠原啓一、神山裕臣、竹田和也、中野功、野口砂絵子、吉田創（以上、東京部）

白方通隆、橋詰敦樹、橋本あまね（以上、北海道支部）

西野靖江、百野あけみ（以上、中部支部）、和田光平（関西支部）

コーディネーター：梅谷秀治（東京支部）

見学者：山崎彰（東京支部）

□ファシリテーション形態（ワークショップ、研修等）：

WebDP モデレーターに15名が協力：日本初のwebを活用してのDP（討議型世論調査）に参加。

全国から参加した市民6～8人とモデレーター1人で1グループを形成。全15グループ。

Webでの会議システムを使い、モニター画面上の参加者（最大8名）同士の熟議をサポートする。

テーマは「高レベル放射性廃棄物処分方法に関する討議型世論調査」で議論の進行と専門家への質問作成を担った。

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景・目的

数万年にわたって放射性廃棄物を管理することは技術的・社会的に可能か？どうすれば今の世代は将来の世代に対して責任を果たせるのか？

この問題は科学技術上の問題であると同時に、市民としての倫理観が問われる問題でもある。

市民1人ひとりが異なる多様な意見に触れ、専門家に疑問をぶつけた上で、どのような考えになるかを日本で初めてWebを活用しての討議型世論調査で調査する。

②終了後に目指した姿（具体的に）

参加した市民が、真剣に議論出来た、多様な意見に触れることができた、そして自分の意見について発言でき、討議に参加して楽しかったと思える場にしたい

国内 初めてのWebDPとして今後に向けて多くの知見を得たい。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

東工大 坂野教授より終了後に、「難しいテーマではありましたが、日本各地の参加者が自宅から討議の場を作れたと感じております。また討議の場の振り返りでWebとリアルDPの違いについての皆様のご意見をお聞きすることができ、たいへん参考になりました」とのメールをいた

できました。3月下旬に再訪した際にも「実は当日朝にサーバーがダウンした。それに伴い混乱を生じたがモデレーターの方たちおよび学生やブイキューブの人たちの沈着な対応で大きな問題にならず感謝している」とのことでした。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

平成26年10月下旬に坂野先生から百野さんに電話連絡があり、12月初旬にWebDPを実施するのでモデレーター協力をお願いしたい由。この時点で時間的条件に欠けるためファシ活をあきらめた。あわせて実施予定日に先約ありで、百野さんは担当を梅谷に譲った。

年末ギリギリに3月1日実施が決定。ファシ活案件とすることも決まり、年明け早々にMF募集、15名のうち5名をリアルDP経験者とし残りの10名を公募して北海道から関西まで幅広い参加を得た。

今回のWebDPでは二つの大きな課題があった。

一つはWebシステムを使っの初めてのDPということでモデレーターだけでなく参加者も支障なくシステムを使えるか？ということだったが、十分な事前トレーニングにも拘らず最小限の混乱は避けられなかったと言える。特にモデレーターにこの状況を的確に伝えられなかったのはコーディネイターとして大きな反省材料である。

もう一つはDP初心者へのフォローである。

従来のリアルDPに習い前日2時間の講習を計画したが、Webシステムへの準備に時間をとられ1時間足らずの時間しかなかったが、神山さん・百野さんのロールプレイ&質疑応答が的確でDP初心者の方も1日の本番ではツボを押さえた対応ができていたと感じた。

終了後の振り返りには坂野先生も参加し、実感を伴ったモデレーターの多様な意見がこれからのWebDPに大いに参考になったと謝辞をいただいた。

□実施（支援）内容

DPはスタンフォード大学にフィッシュキン教授が開発した世論調査の手法で、

- ①無作為抽出でサンプリングを行い、第1回目のアンケート調査を行う。
- ②第1回目の回答者の中から公平なサンプリングを行い、詳しい資料を送った後に第2回目のアンケート調査を行う。
- ③第2回目のアンケート参加者に集まっいただき、参加者同士の熟議を経て専門家への質問を作成・回答を経て第3回目のアンケートを行う。

モデレーターは第3回目の熟議の進行に関わり、併せて専門家への質問を作成する。

討議テーマは「核のゴミの処分方法に関するWeb討議会」で、午前中は「最終処分のリスクと責任」、午後は「処分地を受け入れますか？」で討議を行い、質問作成を行った。

■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気づき等）

主催者が実施した参加者へのアンケート結果は以下の通りです。

問い「グループ討議の進行やその内容についてあなたはどのように感じましたか？」

（評価は7点法で、①そう思わない、④どちらとも言えない、⑦そう思う、の平均です）

- | | |
|---------------------------------------|----------|
| 1、グループ討議の進行役は、全員が討議に参加できるような機会を作っていた。 | (5. 4 2) |
| 2、グループ討議で話し合うべき内容は討議できた。 | (5. 6 7) |
| 3、他の参加者の意見が参考になった。 | (6. 1 8) |
| 4、進行役が進行役自身の意見を示唆する傾向があった。 | (6. 0 9) |
| 5、自分と別の意見にも、よい見解があるとわかった。 | (2. 2 7) |

■事業の概要

□主催：静岡県社会福祉士会西部支部会

□事業名：福祉の現場で活かせるファシリテーション講座

□実施期間（企画・準備含む）：2015年2月23日から2015年3月21日

□実施日・場所：2015年3月21日（土曜日）13：30～16：30 磐田市総合健康福祉会館（アイプラザ）

□参加者数：19人

□担当チーム（FAJ会員）：鈴木まり子（メインファシリテータ）、川端健司（アシスタント兼記録）
杉原廣二、加藤貴美子（コーディネーター）

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：静岡県社会福祉士会の支部定例会でファシリテーション研修を実施

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：

社会福祉士は他職種連携の調整役として様々な会議をリードしていく立場にある。ところが、普段の会議では発言者に偏りがあったり、結論にたどり着けなかったりなど、運営力の向上がもてられていた。

②目的：

協働コミュニケーションの技術と考え方を学び、会員それぞれが福祉現場で活かせるファシリテーション力を身に付け、今後の会議運営の手ごたえをもってもらおう。

③終了後に目指した姿（具体的に）：

地域ケア会議、サービス担当者会議など他職種連携会議や、地域での話し合い、利用者の家族との話し合い、職場での会議、打ち合わせ、参加型の講座、ワークショップの場などで、円滑に場が進行できている。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

（主催者）

・毎月の定例会は参加者が20人前後と少なく固定していたのが、参加型の研修会を催したことで、会員間の交流がすすみ、かつ、新規の参加者もあった。

（参加者）

- ・議論を紙に書き掲示したことで、休み時間でも議論が見えて、話し合いが深まった。
- ・会議の初めにオリエンテーションを行うことの大切さに気付いた。参加者を主語にして目的を語っておくことで、参加者の当事者意識が高まる。
- ・ファシリテーションの8つの原則は、参加者がそれぞれの立場で活かせる内容だと思う。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

2月23日（月）19：30～20：30 打ち合わせ

場所：鈴木宅 打ち合わせメンバー：甚沢さん、鈴木

打ち合わせ内容：講座のゴール、アウトカムの決定、当日までのスケジュール、備品の確認

3月21日（土）10：00～11：00 直前打ち合わせ

場所：岩田駅前喫茶店 打ち合わせメンバー：鈴木、川端、加藤

打ち合わせ内容：研修会の進め方、役割、約束事の確認

□実施（支援）内容

13:30 オープニング：主催者の開会挨拶、講師・スタッフの自己紹介、オリエンテーション

13：50 アイスブレイク：ペアに分かれての知り合いタイム

14：20 講義：ファシリテーションの目的と効果

14：35 参加型話し合い①：机やいすの配列を変え、場づくりを体験する

14：55 休憩

15：10 参加型話し合い②：「話し合いの場で困ったなあと思うのはどんな時？」

「こんな時、どうしたらいいの？」

15：40 休憩

15：50 講義：参加型会議の進め方8つのポイント

16：10 参加型話し合い③：今日の学びを現場でどう活用するのか

16：25 まとめ

■担当チーム振り返り（現場におけるファシリテーションの活用支援に参加して良かったこと・成果／改善点や気づき等）

・社会福祉士の定例会であり、ファシリテーションに覚えのある人向けに、研修会を進行した。最後に質疑応答の時間は取れなかったものの、場から出てくる希望に都度、答えたことで、かえって、参加者の当事者意識が深まった（鈴木）。

・ファシリテーションを様々な現場で使ってもらえることを重視していたが、最後の3人1組で感想を話すとき、そのことが参加者に伝わっていたことが感じられた。会議冒頭のオリエンテーションの大切さの気づきや、途中経過の記録を掲示すれば議論が促進されるという意見が出ていた（加藤）。

・アシスタントとして参加させていただき、議論の活性化をはかろうとすれば、参加者の関わり合いが深くすることは大切だと気づけた。アイスブレイクの際、ペアを変えた自己紹介を二回まわしたことに違和感をもったのだけど、かえって、議論は発散。参加者からも充実した研修会であったとの意見が相次いだ（川端）。

・事前準備の際、ファシリテーターの鈴木さんより、短い時間では、ワークショップをするより、講義をしっかりとしたうえで振り返るから意味が生まれると教わった。実際、参加者の声として、時間がたつのも早く感じられ、充実していたとの意見が相次いだ。ファシリテーターには、与えられた条件に則して、最も適したプログラムを選択する力が大切だと気づけました（川端）。



研修会が始まってのアイスブレイクの様子です。



休憩時間の様子。自己紹介の用紙を前に参加者が集まり、和やかな雰囲気うまれていきました。



「話し合いの場で困ったこと」についてグループ毎に数多くの意見を出し合い、「こんなときにどうすればいいか」グループとして、質問を考えています。



活発な議論の後、参加型会議の進め方の8つの基本をもとに、振り返りを行っています。